

**製品名: GPRC5C ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab11714**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	48kDa

**抗原情報**

遺伝子名	GPRC5C
別名	GPRC5C; RAIG3; PSEC0087; G-protein coupled receptor family C group 5 member C; Retinoic acid-induced gene 3 protein; RAIG-3
遺伝子 ID	55890.0
SwissProt ID	Q9NQ84
免疫原	抗血清はヒト GPRC5C 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 51-100

**背景**

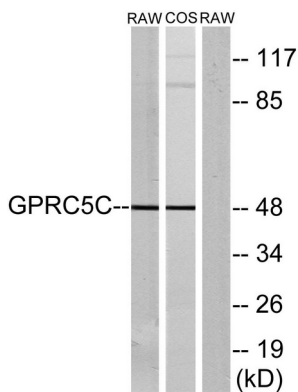
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、タイプ 3 G タンパク質共役受容体ファミリーのメンバーです。このスーパーファミ

リーのメンバーは、特徴的な7つの膜貫通ドメインモチーフを特徴としています。このタンパク質の具体的な機能は不明ですが、レチノイン酸のGタンパク質シグナル伝達カスケードに対する細胞内作用を媒介する可能性があると考えられます。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2008年7月]、機能: 不明。このレチノイン酸誘導性Gタンパク質共役受容体は、レチノイドとGタンパク質シグナル伝達経路間の相互作用の可能性を示唆する。誘導: オールトランスレチノイン酸 (ATRA) による。PTM: DNA 損傷時にリン酸化される。おそらく ATM または ATR による。類似性: Gタンパク質共役受容体3ファミリーに属する。細胞内局在: 細胞膜および核周縁小胞に局在する。組織特異性: 発現は末梢、特に胃で最も高いが、腎臓、肝臓、膵臓、前立腺でも認められる。脳では、小脳、脊髄、および後根神経節 (DRG) を除き、発現レベルは一般に末梢よりも低い。

## 研究分野

-

## 画像データ



GPRC5C 抗体を用いた RAW264.7 細胞および COS7 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。